

患者向け説明書:狂犬病ワクチン この説明書は、狂犬病ワクチン接種を受ける方に必要な情報をまとめたものです。接種前に必ずご確認ください。

狂犬病とは

- **原因:**狂犬病ウイルスによる感染症。
- **感染経路:**主に狂犬病に感染した犬やコウモリなどの動物に咬まれることで感染します。
- **症状:**発熱、頭痛、倦怠感から始まり、進行すると幻覚、けいれん、恐水症(飲水困難)、麻痺などを起こします。
- **重症度:**発症するとほぼ 100%死亡する極めて致死率の高い感染症です。

ワクチンの特徴

- **種類:**不活化ワクチン。
- **目的:**狂犬病の発症を予防するために接種します。
- **接種方法:**渡航のための狂犬病ワクチン接種は、渡航前に3回接種が基本で、「0日目、7日目、21~28日目」のスケジュールが一般的ですが、出発の1ヶ月前には接種を終えるのが理想です。
- **効果:**効果は高く、発症すればほぼ 100%死亡する病気なので、リスクの高い地域へ行く人、医療機関にすぐアクセスできない環境に行く人には特におすすめで、接種後は万一咬まれても、追加接種で済むため、より安全になります。

副反応について

- **よくある副反応:**注射部位の発赤、腫れ、痛み。
- **全身反応:**発熱、頭痛、倦怠感、筋肉痛。
- **まれな副反応:**強いアレルギー反応(アナフィラキシー)。

接種が推奨される方

- 狂犬病流行地域(アジア、アフリカ、中南米など)へ渡航・長期滞在する方。
- 獣医師、動物取扱業務従事者、野生動物研究者など。
- 狂犬病に感染している可能性のある動物に咬まれた方。

接種前の注意

- 発熱や体調不良がある場合は接種を延期することがあります。
- 過去にワクチンで強い副反応があった場合は必ず医師に伝えてください。
- 妊娠中・授乳中の方は医師に相談してください。

接種後の注意

- 接種当日は激しい運動や飲酒を控えてください。
- 注射部位の腫れや痛みは数日で改善することが多いです。
- 強い症状が続く場合は速やかに医師へ相談してください。

まとめ

狂犬病は発症すると致死率がほぼ 100%の恐ろしい感染症ですが、ワクチン接種により確実に予防できます。特に流行地域に渡航する方や動物と接触する機会が多い方は、事前の予防接種が強く推奨されます。また、動物に咬まれた場合は速やかに医療機関を受診し、ワクチン接種を開始することが命を守る鍵となります。

この説明書は一般的な情報です。詳細は必ず医師・医療機関にご相談ください。

副反応確認のため、接種後 20 分間体調確認をさせていただきます。

帰宅後、体調の変化などがございましたら下記にお問い合わせ下さい。

秋田赤十字病院 電話 018-829-5000(代表)

平日(8:30-16:30)は予防接種センターでの対応、それ以外の時間帯は救急外来での対応となります。